

松田文雄先生の教授職御退任に寄せて

本学総長松田文雄先生は平成十一年三月末で文学部教授（文化学教室）を定年退職された。総長職は引き続きお務めになられる。

だから、いま御退任に寄せての一文を書く私には、ふつうこうした文を草するに際して感じるであろうあの種の「淋しさ」といったものはない。本部棟九階の総長室をお訪ねすれば、毎日精勤されている先生の温容にいつでも接しうるからである。

先生が文学部専任教員になられたのは昭和四十六年四月であるから、三十年近くお付き合いいただき、お世話になったことになる。

もっとも私をはじめて先生の警咳に接したのは、それよりもかなり前の、多分先生が非常勤講師か旧宗学研究所の所員であられた頃であったと思う。たしか学内のある研究会で達磨大師の伝記と思想の性格について発表されたときと記憶するが、演壇に立たれた先生は背筋をピンと伸ばし、やや甲高い声で滔々と所説を述べられた。その迫力と蘊蓄にすこぶる感銘を受けたのであった。この改まったときの先生らしいスタイルは現在も変わっておられないようにお見受けする。

先生は温厚かつ謹厳であられる。あの御性格の形成にはどうも東北大学時代の恩師たちの影響もあるよう

だ。先生は東北大学文学部印度学科に学ばれ、ついで同大学院で印度学を専攻された。当時の東北大学にはインド学・仏教学の泰斗山田龍城、金倉円照の両博士がおられた。

先生は両博士に師事されたが、「金倉先生はドイツに留学されたせいかわ、カントのような人で、日常生活はきちんとしており、研究姿勢は厳格、時間厳守という方であった」と述懐される。畏友山折哲雄氏（現白鳳女子短期大学長）は松田先生と同窓であり、やはり両博士の薫陶を受けているが、「金倉先生は実に学問に厳しい人で、先生の前にいくといつも緊張のしっばなしであった」と懐古する。松田先生の文を拝見すると、論旨明晰で無駄のない独特の表現を身上とされていることがすぐ分かる。東北・金倉学の伝統が先生の学問を貫いている証左といえるのではあるまいか。

先生はその後、東北大学大学院から駒沢大学大学院仏教学専攻修士課程に入学され、増永靈鳳博士の下で中国禅宗史に取り組まれた。「伝統的達磨伝の成立過程について」（『宗学研究』第一号、昭和三十一年三月）は、その御成果の一つである。

その後先生は曹洞宗学、とくに瑩山禅師研究の分野で着々と御業績を積み、今日この分野における第一人者と目されるにいたっておられることは、よく知られている。

先生の御著書（共著・共編を含む）には、『曹洞宗全書』全三十三巻（曹洞宗全書刊行会、昭和四十五年五月）昭和五十三年五月、『宗教学ハンドブック』（世界書院、昭和四十八年三月）、『禅学大辞典』（大修館書店、昭和五十三年六月）、『大雄山と御開山さま——了庵慧明禅師の足跡をたずねて——』（大雄山最乗寺、昭和五十九年九月）、『瑩山禅』全十二巻（山喜房仏書林、昭和六十年三月 平成六年四月）、『新版 禅学大辞典』（大修館書店、昭和六十年十一月）などがある。

これら諸著のなかでもとりわけ私の関心を誘ったのは『大雄山と御開山さま』である。

本書は道了尊として名高い大雄山最乗寺の開山了庵慧明禅師の足跡と最乗寺の開創に関する記述が主となっているが、いわゆる祈禱寺院の成立と展開を宗教史学または宗教社会史学的手法で追究した好著である。本書には仏教（禅）と土着的な民俗信仰との相互関係が史実と推論を手掛かりに生き生きと論じられており、宗教民俗学や宗教人類学の資料としてもたいへん貴重である。

ほかの諸著について述べるのは、私の力量を超えているので差し控えるが、いずれも曹洞宗学研究上の不可欠の仕事であることは間違いあるまい。

先生は学内にあつては文学部文化学教室主任を四度歴任された。温厚で慎重な事の進め方には定評がある。昭和六十一年四月には文学部の興望を担って文学部長に選任され、平成元年三月まで務められた。学生をもたない教室から学部長に担ぎだされたのははじめてである。そして平成九年四月には第二十六代駒沢大学総長に任ぜられ現在にいたっておられる。

先生は中学時代には柔道に精進され、二段の有段者である。旧制山形高校時代にはスキー部に属し、冬の蔵王によく通われたという。スポーツマンでもあられるのである。

趣味は何ですかと訊かれると、先生は庭いじりと畑仕事ですと答えられる。小田原市郊外の御自坊には野菜畑、ミカン畑、筍園があり、休日には野菜畑で鍬をふるい、ミカンの樹を剪定される。私も教室の同僚たちと共に筍掘りとミカン狩りにかがったことがある。

ひと仕事終わると、庫裡の座敷で奥様の手料理を御馳走になり、ほろ酔い気分以小田急電車に乗るのだった。お寺の筍やミカンは新鮮で美味だった。

庫裡の中程に先生の十二畳間の書齋がある。ほぼ真ん中に大机があり、四周は万巻の文献で埋まっている。あの書齋の机に向かわれるときが、学究松田先生の最も落ち着かれる静かな時間であるのだろう。

いま先生は総長として御多忙であるが、御健康に十分留意され、職責を全うされるよう祈念する次第である。

この文を草するに相応しい人たちが仏教学部や宗学研究部門には数々おられるのを十分承知しておりながら、門外漢の私がペンを執ったのは、先生は文化学教室の教授であられたし、先輩であられるという理由からである。文中思い違いや誤りがあるかもしれないが、もしあるとすれば、御容赦を乞うのみである。

(佐々木宏幹)

松田文雄教授略年譜及び研究業績

《略年譜》

昭和二年九月二八日

山形県大江町・光学院に生まれる

昭和二〇年三月

旧制梅檀中学卒業

昭和二〇年四月

旧制山形高等学校入学

昭和二三年三月

旧制山形高等学校卒業

昭和二四年四月

東北大学文学部印度学科入学

昭和二七年三月

東北大学文学部印度学科卒業

昭和二七年四月

東北大学旧制大学院印度学専攻入学

昭和二九年三月

東北大学旧制大学院印度学専攻退学

昭和二九年四月

駒澤大学大学院人文科学研究科仏教学専攻修士課程入学

昭和三一年三月

駒澤大学大学院人文科学研究科仏教学専攻修士課程修了

昭和四六年四月～四八年三月

駒澤大学文学部講師

昭和四七年七月～平成二年六月 駒澤大学宗教学研究会幹事

昭和四八年四月～五二年三月 駒澤大学文学部助教

昭和五二年四月～平成一年三月 駒澤大学文学部教授

昭和五二年一〇月～五八年三月 駒澤大学文学部文化学教室主任

昭和六一年四月～平成元年三月 駒澤大学文学部長・駒澤大学評議員

昭和六二年四月～平成元年三月 駒澤大学理事

平成二年四月～三年三月 駒澤大学公費留学(国内)

留学先 東京大学文学部宗教学研究宗教学史学教室

研究課題 「日本宗教文化史——特に禅宗の発展について——」

平成二年六月～現在 駒澤宗教学研究会理事

平成五年四月～平成七年三月 駒澤大学文学部文化学教室主任

平成五年四月～現在 印度学宗教学研究会理事

平成九年四月～現在 駒澤大学総長・理事・評議員

平成九年四月～現在 日本仏教学会理事

平成九年四月～現在 日本仏教福祉学会理事

《著書》

『大雄山と御開山さま——了庵慧明禅師の足跡をたずねて——』大雄山最乗寺 昭和五九年九月

《共著書・共編書》

- 『曹洞宗全書』全二三巻 曹洞宗全書刊行会 昭和四五年五月〜昭和五三年九月
『宗教学ハンドブック』柴田道賢・水野弘元編（分担執筆）世界書院 昭和四八年三月
『禅学大辞典』大修館書店 昭和五三年六月
『瑩山禅』全一二巻 山喜房仏書林 昭和六〇年三月〜平成六年四月
『新版 禅学大辞典』大修館書店 昭和六〇年一月

《論文》

- 「伝統的達磨伝の成立過程について」『宗学研究』第一号 曹洞宗宗学研究所 昭和三二年三月
「高校『倫理社会』に取り上げられた道元禅師の思想——教科書の取り扱い方の問題点——」『宗学研究』第七号 曹洞宗宗学研究所 昭和四〇年四月
「洞谷記について（1）——瑩山禅師研究の資料点検——」『宗学研究』第八号 曹洞宗宗学研究所 昭和四一年四月
「洞谷記について（2）——瑩山禅師研究の資料点検——」『宗学研究』第九号 曹洞宗宗学研究所 昭和四二年三月
「道元禅師会下における義介禅師の地位について」『宗学研究』第一〇号 曹洞宗宗学研究所 昭和四三年三月

「伝光録について」『印度学仏教学研究』第一六卷第二号 日本印度学仏教学会 昭和四三年三月

「信心銘拈提について」『印度学仏教学研究』第一七卷第二号 日本印度学仏教学会 昭和四四年三月

「信心銘拈提の研究——泉流寺本・重刻本刊行の経緯——」『宗学研究』第一一号 曹洞宗宗学研究所 昭和四四年三月

「瑩山禅師の尽未来際置文について——永光寺開闢の背景——」『宗学研究』第一二号 曹洞宗宗学研究所 昭和四五年三月

「瑩山禅師の尽未来際置文について」『印度学仏教学研究』第一八卷第二号 日本印度学仏教学会 昭和四五年三月

「永平寺の世代順位に関する覚書」『宗学研究』第一三号 曹洞宗宗学研究所 昭和四六年三月
「曹洞宗教団の成立について——その序論——」『宗学研究』第一四号 曹洞宗宗学研究所 昭和四七年三月

「『坐禅用心記』考——第一段・坐禅の意義について——」『宗教学論集』第五輯 駒澤大学宗教学研究會 昭和四七年一月

「三代相論の意味するもの」『宗学研究』第一五号 曹洞宗宗学研究所 昭和四八年三月

「『坐禅用心記』考(二)——第二段 調心・調身・調息について——」『宗教学論集』第六輯 駒澤大学宗教学研究會 昭和四八年八月

「瑩山禅師伝考——世寿について——」『駒澤大学文化』第一号 駒澤大学文学部文化学教室 昭和四九年三月

- 「瑩山禪師世寿五十八歳説に対する私見」『宗学研究』第一六号 曹洞宗宗学研究所 昭和四九年三月
- 「『坐禅用心記』考(三)——第三段 坐禅と経教——」『宗教学論集』第七輯 駒澤大学宗教学研究会 昭和四九年一二月
- 「『洞谷記』の研究」瑩山禪師奉讃刊行会編『瑩山禪師研究』瑩山禪師奉讃刊行会 昭和四九年一二月
- 「寺院経済権の変容——初期曹洞宗教団の底流をさぐって——」『駒沢大学文化』第二号 駒澤大学文学部文化化学教室 昭和五一年三月
- 「菩提達磨論——『洛陽伽藍記』の達磨——」『駒沢大学文化』第三号 駒澤大学文学部文化化学教室 昭和五二年三月
- 「『坐禅用心記』考(四)——第四段 坐禅の儀則——」『宗教学論集』第八輯 駒澤大学宗教学研究会 昭和五二年一二月
- 「『坐禅用心記』考(五)——第五段 坐中の用心・結語——」『宗教学論集』第九輯 駒澤大学宗教学研究会 昭和五四年一二月
- 「了庵慧明伝考——特に二幅の画賛をめぐって——」『駒沢大学文化』第六号 駒澤大学文学部文化化学教室 昭和五六年三月
- 「『伝光録』異本校合の序章」『駒澤大学文学部研究紀要』第四一号 駒澤大学文学部 昭和五八年三月
- 「懐観大姉伝再考」『宗教学論集』第一三輯 駒澤大学宗教学研究会 昭和六二年三月
- 「伝光録の筆写本について」光地英学・松田文雄・新井勝竜編『瑩山禅』第四卷 山喜房仏書林 昭和六二年五月

「瑩山禪師伝及び略年譜」 光地英学・松田文雄・新井勝竜編 『瑩山禪』 第一一卷 山喜房仏書林 平成三年二月

「瑩山と明峰」 『駒沢大学文化』 第一六号 駒澤大学文学部文化学教室 平成五年三月

「瑩山」 曹洞宗宗学研究所編 『道元思想のあゆみ』 第一巻 吉川弘文館 平成五年七月

「曹洞宗教団の形成と展開」 曹洞宗宗学研究所編 『道元思想のあゆみ』 第二巻 吉川弘文館 平成五年七月

《研究発表要旨》

「禅宗史伝にあらわれた禅的人間像の形成——禅宗史伝研究への手引——」 (第八回教化学大会発表要旨)

『教化研修』 第一二号 曹洞宗教化研修所 昭和四四年三月

《見聞記》

「LOESSの文化をまのあたりに見て」 駒澤大学中国仏教史蹟参観団編 『中国仏蹟見聞記』 第一集 昭和五四年一二月

「訪中雑感——招宝山のこと——」 駒澤大学中国仏教史蹟参観団編 『中国仏蹟見聞記』 第二集 昭和五六年一〇月

「中国仏蹟参観の記——四祖・五祖・六祖・洞山の遺跡をたずねて——」 駒澤大学中国仏教史蹟参観団編

『中国仏蹟見聞記』 第三集 昭和五七年八月

「中国仏蹟参観の記」 駒澤大学中国仏教史蹟参観団編 『中国仏蹟見聞記』 第四集 昭和五七年八月

「訪中雑感——瀋山を訪ねて——」駒澤大学中国仏教史蹟参観団編『中国仏蹟見聞記』第五集 昭和五九年八月

「雑感 湖北の禅跡をたずねて——太陽寺・玉泉寺——」駒澤大学中国仏教史蹟参観団編『中国仏蹟見聞記』第五集 昭和六〇年八月

《解説》

「曹洞宗全書（語録四）解説」『曹洞宗全書復刻版会報』一五 昭和四八年四月

「訓読と解説」『瑩山禅師御遺墨集』大本山総持寺 昭和四九年四月

「続曹洞宗全書（宗源補遺・禅戒・室中）解説」『続曹洞宗全書会報』七 鏡島元隆・河村孝道・黒丸寛之

・松田文雄 昭和五〇年五月

「続曹洞宗全書（注解三）解説」『続曹洞宗全書会報』八 昭和五〇年十一月

「『真歇和尚拈古抄』」『続曹洞宗全書会報』八 昭和五〇年十一月

「続曹洞宗全書（清規・講式）解説」『続曹洞宗全書会報』九 光地英学・松田文雄 昭和五一年二月

「経典解説『仏遺教経』」（第一回～第四回）『曹洞宗報』第六〇四号～第六〇七号 曹洞宗宗務庁 昭和六一年一月～四月

《曹洞宗文化財調査目録及び解題》

「滋賀県徳勝寺、清涼寺」『曹洞宗報』第六五五号 曹洞宗宗務庁 平成二年四月

- 「石川県総持寺祖院及び小間家」『曹洞宗報』第六六〇号 曹洞宗宗務庁 平成二年九月
- 「北海道法幢寺他二寺」『曹洞宗法』第六六五号 曹洞宗宗務庁 平成三年二月
- 「宮崎県台雲寺他二寺」『曹洞宗報』第六七〇号 曹洞宗宗務庁 平成三年七月
- 「佐賀県円応寺」『曹洞宗報』第六七七号 曹洞宗宗務庁 平成四年二月
- 「千葉県真如寺、正泉寺」『曹洞宗報』第六八二号 曹洞宗宗務庁 平成四年七月
- 「京都府智源寺」『曹洞宗報』第六八七号 曹洞宗宗務庁 平成四年二月
- 「山形県洞春院他五寺」『曹洞宗報』第六九三号 曹洞宗宗務庁 平成五年六月
- 「岡山県定林寺」『曹洞宗報』第七〇一号 曹洞宗宗務庁 平成六年二月
- 「山梨県長生寺、宝鏡寺」『曹洞宗報』第七〇七号 曹洞宗宗務庁 平成六年八月
- 「高知県真如寺他三寺」『曹洞宗報』第七一二号 曹洞宗宗務庁 平成七年一月
- 「大阪府大広寺」『曹洞宗報』第七一八号 曹洞宗宗務庁 平成七年七月
- 「茨城県円通寺、東昌寺」『曹洞宗報』第七二三号 曹洞宗宗務庁 平成七年十二月
- 「和歌山県三宝寺、法輪寺」『曹洞宗報』第七三〇号 曹洞宗宗務庁 平成八年七月
- 「新潟県種月寺」『曹洞宗報』第七三五号 曹洞宗宗務庁 平成八年十二月
- 「埼玉県光源院、広見寺」『曹洞宗報』第七四四号 曹洞宗宗務庁 平成九年八月

《その他》

「瑩山禪師研究寸摘抄」(第一回〜第七回)『大遠忌だより』大本山総持寺 昭和四八年〜四九年

「瑩山禪師のみおしえ」 『跳龍』 第三三七号〜第三四二号 大本山総持寺 昭和五二年六月〜二月
「伝光録」にまなぶ 『跳龍』 第三八四号〜第四三九号 大本山総持寺 昭和五五年九月〜六〇年八月